

令和 5 年度 園の自己評価

		評価 (1~5)	今年度の状況
教育・保育	園児一人一人が安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする	5	個性を尊重し、一人一人の気持ちに寄り添いながら、安心して活動に取り組めるよう配慮した。
	主体的な活動を促す環境の工夫をする	4	園児の成長や興味の多様性に合わせて、環境を整えられるように努めたが、引き出すための工夫がもう少しできると良かった。
	自発的な活動としての遊びを通して指導を行う	5	遊びを中心とした保育を大切にし、自発的な活動が展開されていた。
	園児一人一人の特性や発達に応じた指導を行う	4	一人一人の特性や発達を理解し、職員間で連携を図りながら、園児の課題に応じた保育を心掛けた。
	活動によって幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている3つの資質・能力が育まれている	4	指導案は資質や能力を意識して立案できたが、実践でもっと具体的に意識して保育できるよう工夫が必要だった。
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、教育・保育にあたっている	4	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を保育活動に取り入れられているが、意識するという点では足りなかったように感じる。
	小学校との連絡会に参加し、小学校教育と円滑な接続ができるように情報交換をしている	4	直接交流する機会はなかったが、連絡会に参加し、一人一人の姿などしっかりと情報交換できた。
健康支援	学校保健計画に沿った保健活動を行う	5	コロナ禍を経験し、感染症対策や熱中症対策など職員に浸透しており、保健活動を通し健康に過ごせた。
	園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	5	各クラスとも検温、視診に努め、症状やいつもと違う様子がある時は、職員間で情報共有、相談し、対応できた。
	体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている	5	職員間で情報共有や相談をし、保護者に状況説明やお迎えの連絡をした。発熱児の隔離・怪我の場合は病院を受診した。
	園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している	5	入園・進級時に保護者に保健調査票の記入をしてもらっている。感染症罹患後、登園時に登園届の提出をお願いしている。
	保健だよりにて情報発信をしている	5	季節に応じた感染症の予防法や、体調管理の方法、園内の感染症の状況などを毎月発信した。
	感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている	5	ほけんだよりに感染状況を掲載したり、ホワイトボードに欠席状況を掲示したりした。
	感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている	5	発熱・嘔吐・下痢など、症状のある園児は、保護者に連絡後お迎えまで事務室で様子をみた。嘔吐処理も確実に行った。
	睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている	5	乳児クラスはSIDSチェック表に時間ごとに体位や呼吸のチェックを行った。室温や布団周囲の環境も整えた。
	AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている	2	クラス毎に心肺蘇生訓練を行う予定だったが、計画倒れに終わり、来年度は主幹と相談し、日程の計画を立てて実行したい。
食育	食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている	3	給食室職員の入れ替わりがあり、計画通りの食育活動ができなかった。次年度へ向けて年間計画を見直し、作成していく。
	安全、安心な給食やおやつを提供をしている	2	給食の提供ができなくなってしまった時期があり、保護者の方に不安な思いをさせてしまった。おやつのはしり、子ども達は喜んで
	旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている	5	季節の行事に合わせて特別メニューを取り入れるなど工夫をし、子ども達が給食を楽しみにして、残食が減った。
	栄養だよりにて情報発信をしている	5	行事食の由来や、旬の食材の調理方法等の情報を、保護者の方に発信することができた。
	食物アレルギー対応を適切にしている	5	アレルギー児が使用する食器とトレイの色を個別に用意し間違えが無いようにしている。より意識を高められるようにチェック表を作成した。
	離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している	5	子ども一人一人の成長や家庭での様子を聞き取りながら、保護者の方と一緒に相談して進めている。
環境・衛生	室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている	5	子どもの様子を常に観察し、室温・湿度計もこまめにチェックしながら、快適な環境づくりを心掛けた。
	嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している	5	感染症流行時期前には、看護師を中心に正しい嘔吐物処理方法を確認した。オムツ交換時の手洗い等も徹底している。
	衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている	5	全ての清掃場所を担当で割り振り、責任をもって清掃した。除菌保管庫を各クラスに配置し、活用している。
	調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている	5	調乳・食事介助前には手洗いを十分に行い、食事前エプロンと三角巾を着用した。机や椅子、床等も丁寧に拭き取り清潔を保っている。
災害への備え	学校安全計画・危険等発生時対処要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている	5	担当を決め、定期的に安全点検を行っている。気になる箇所等があった場合は、すぐに改善ができるように対処している。
	危険等発生時対処要領に基づき、緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担について確認をしている	5	マニュアルやチャート表の見直しを職員会議で行い、保育者一人一人が適切な対応できるようにした。
	毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している	5	毎月想定内容を変えたり、事前に知らせず本当の災害時のように訓練を行うことができた。
	災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている	5	実際の災害を想定し、保護者の方にも緊迫感をもって引き渡し訓練に参加していただくことができた。
	防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている	5	防災倉庫を購入し、より備蓄品の管理や保管がしやすくなった。
	園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている	5	園外活動はもちろん、園内での活動時も常に職員間で連携を図り、子ども達の所在確認を行っている。
事故防止	遊具や玩具の安全点検を定期的に行っている	4	外遊びの際に、壊れている所がないか等確認したり、職員同士で不具合を伝え合ったりした。
	園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている	5	園外で危険箇所があった時には園長に報告し、職員間でも共有できるようにしたり、市役所等へ報告したりした。
	日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している	4	ヒヤリハットや事故報告は速やかに行えるようにし、その結果を元に定期的に職員間で反省、対策等を話し合った。
	不審者の対応など危機管理について職員で周知している	2	職員会議で、対応についての話し合いは行ったが、参加できていなかった職員等への周知は足りなかったように感じる。
	睡眠、プール活動、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に応じた適切な対応を行っている	3	主に、車や保護者の出入りが多くなる行事の前には会議等を活用し、対応等について確認をし、事故が起きないように配慮した。
子 支 援 て の	保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している	5	子ども達の話にも上がるので、積極的に参加いただけるきっかけにもなっている。後半は、声かけもしている。
	保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する	4	相談内容に応じて、職員間で後日共有している。相談内容も多岐にわたるので、職員の資質向上にも繋げたい。
	状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う	4	外部機関との連携には、日常の保育にも足りない時代と感じる。積極的に続けたい。
	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している(育児相談・園庭開放・子育て情報誌)	3	在園児の保育に力を入れ過ぎ、地域や子育て情報誌等への働き掛けが不足していた。
資 質 上 昇 向 の	内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたることができるようにする	4	各キャリアアップリーダーが企画進行を行い、より良い保育・資質向上に向けて、職員間で共有することができた。
	キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める	5	オンライン研修を活用し、誰でも参加できる環境を整えた。新任の職員を中心に、キャリアアップ研修も積極的に受講することができた。